

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方気象台

<噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続>

新燃岳では、昨日（27日）以降、火口直下を震源とする火山性地震が多い状態となり、火山活動が高まった状態となっています。本日（28日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、新燃岳火口縁辺や西側斜面割れ目付近の噴気及び地熱域等の状況に特段の変化は認められませんでした。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は検出限界未満でした。

【防災上の警戒事項等】

弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね2kmまで、火砕流が概ね1kmまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね2kmの範囲では警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等が行う立入規制等にも留意してください。

○ 活動概況（図1～6）

新燃岳では、27日以降、火口直下を震源とする火山性地震が増加し多い状態となっています。また、本日（28日）16時24分に、継続時間2分程度の火山性微動を観測しました。

28日、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が新湯温泉付近及び高原町から実施した現地調査では、流下した溶岩の上部及び火口西側斜面の割れ目で、引き続き噴気を確認しました。また、割れ目付近において地熱域を観測しましたが、前回（4日）の観測と比べ地熱域の広がりには特段の変化は認められませんでした。

また、本日実施した山麓における調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は検出限界未満（前回3月4日、検出限界未満）でした。

GNSS連続観測では、2021年12月頃から、霧島山を挟む一部の基線において、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられるわずかな伸びが認められます。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

（<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>）

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、宮崎県及び鹿児島県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

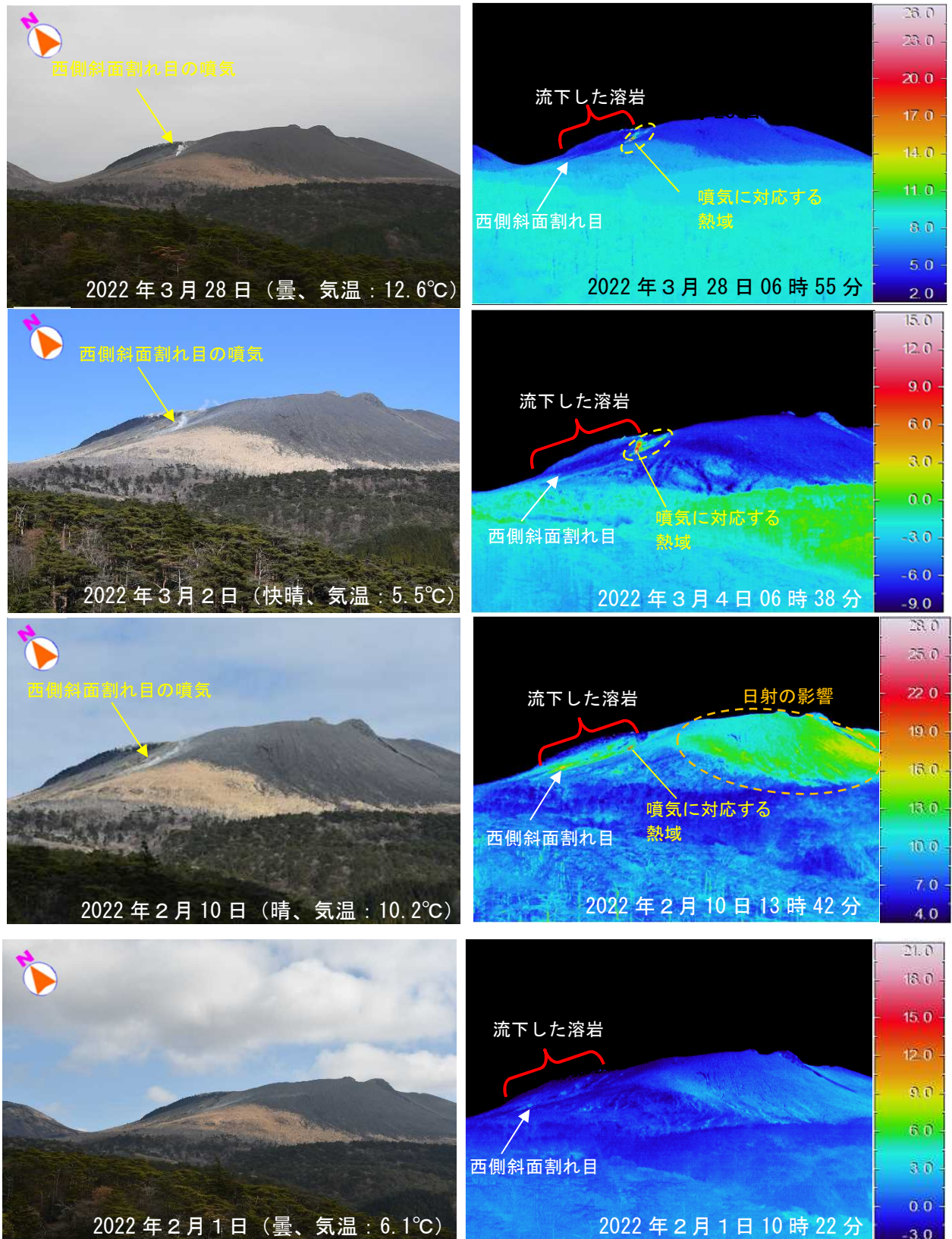


図1 霧島山（新燃岳） 新燃岳南西側の状況（新湯温泉付近から観測）

3月28日に新湯温泉付近から実施した現地調査では、火口西側斜面の割れ目において噴気を引き続き観測しました。また、割れ目付近において地熱域を観測しましたが、前回（4日）の観測と比べ特段の変化は認められませんでした（黄破線内）。

流下した溶岩上方の噴気及び地熱域には、特段の変化は認められませんでした。

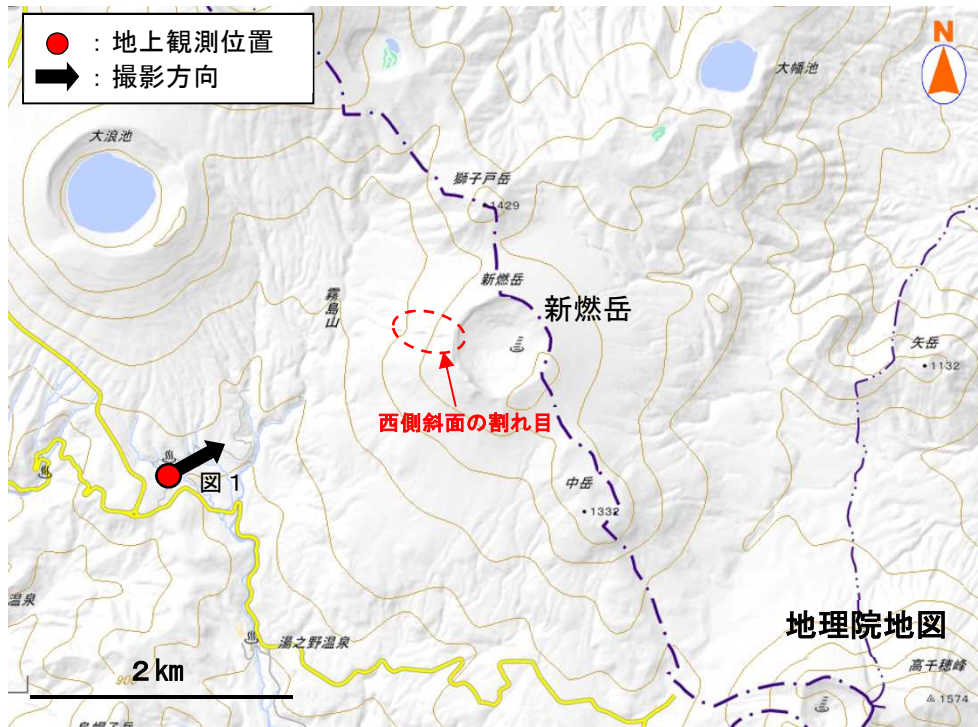


図2 霧島山（新燃岳） 図1の観測位置及び撮影方向

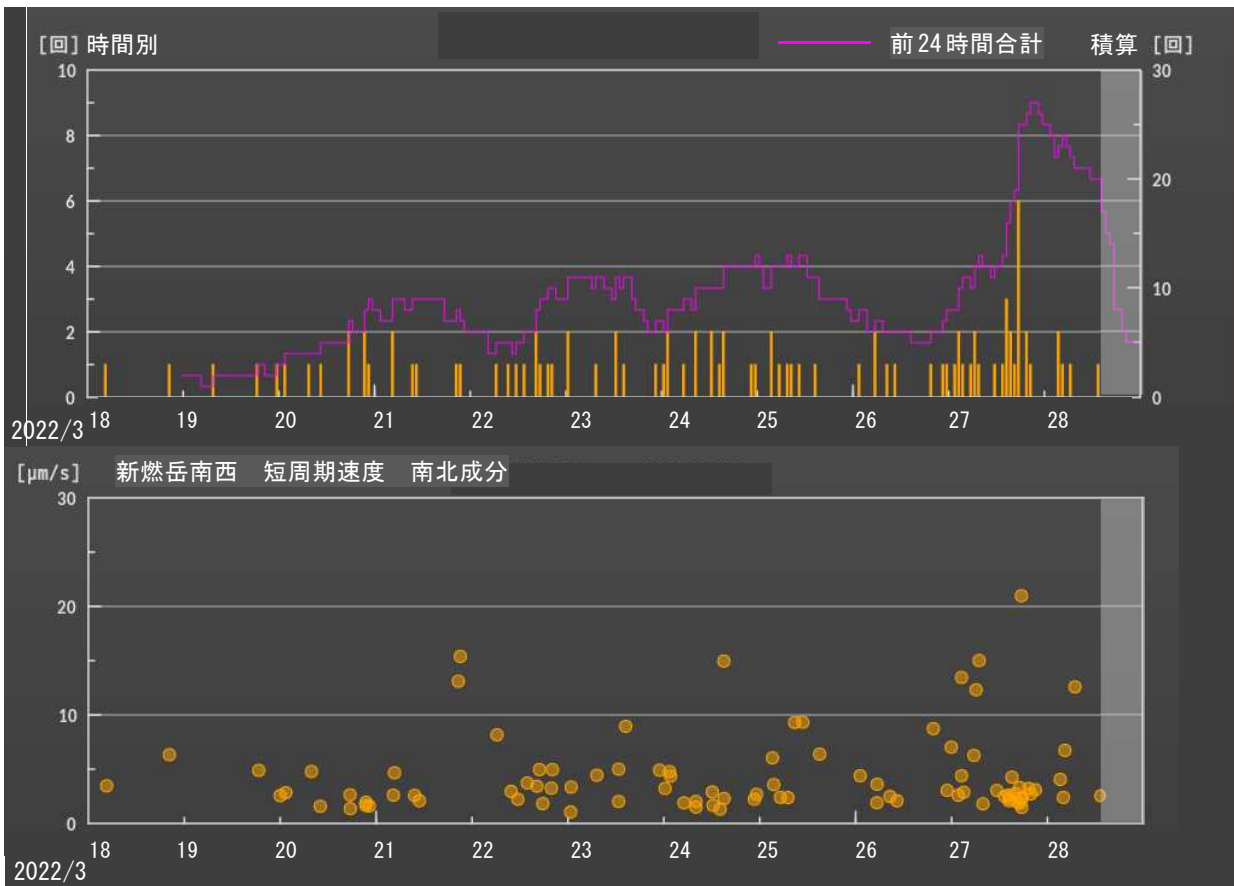


図3 霧島山（新燃岳） 火山性地震の時間別回数及び火山性地震の最大振幅の状況
(2022年3月18日～3月28日13時00分)

新燃岳では、火口直下を震源とする火山性地震が増加し多い状態となっています。

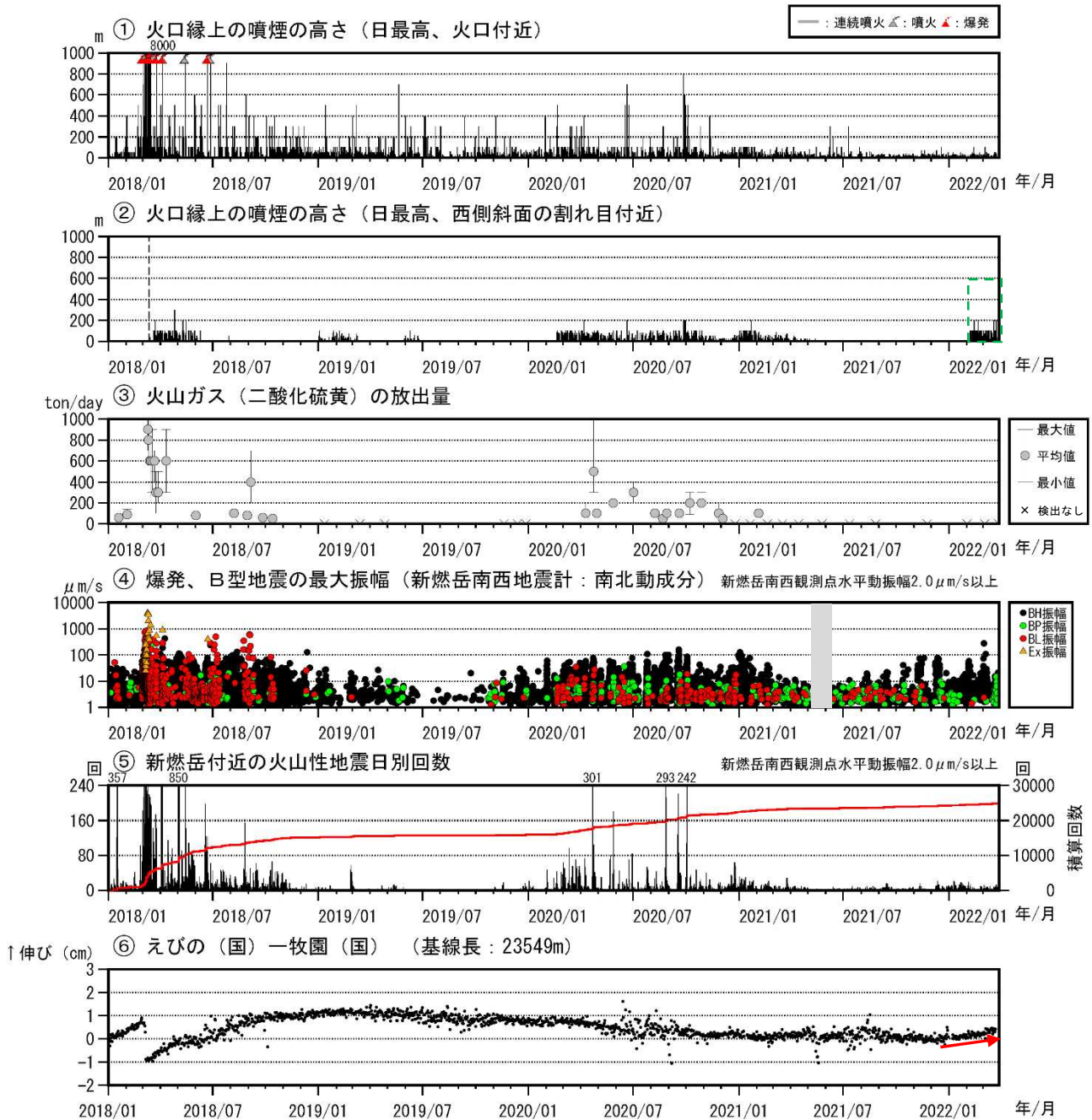


図4 霧島山（新燃岳） 火山活動経過図（2018年1月～2022年3月28日）

- ・ 火口直下を震源とする火山性地震が増加し多い状態となっています。
- ・ 監視カメラによる観測では、火口西側斜面の割れ目において、2022年1月31日に高さ10m未満のごく弱い噴気を観測しましたが、2月上旬以降噴気の勢いが増し、高さ100m程度で推移しています。新燃岳火口内の噴煙の状況に特段の変化は認められません（緑破線内）。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2021年2月下旬以降は検出限界未満で経過しています。
- ・ GNSS連続観測では、2021年12月頃から、霧島山を挟む一部の基線において、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられるわずかな伸びが認められています（赤矢印）。

④の灰色の領域は、新燃岳南西観測点の障害のためデータが抜けている期間です。

⑤の回数について、火山性微動の振幅が大きい状態では、振幅の小さな火山性地震の回数は計数できなくなっています。

⑤の赤線は、地震の回数の積算を示しています。

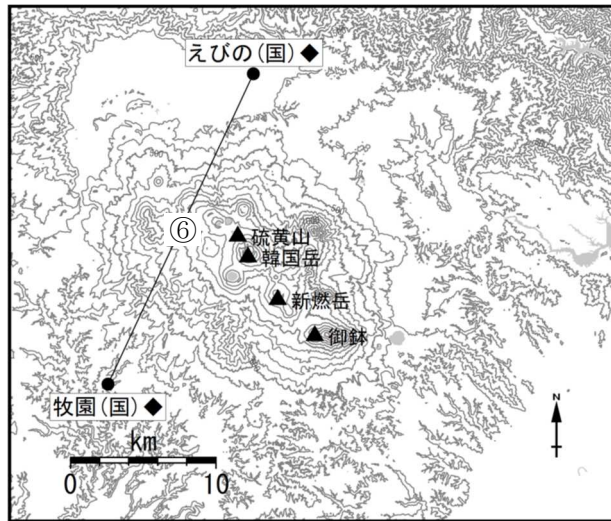


図5 霧島山（新燃岳） 図4⑥のGNSS連続観測点と基線

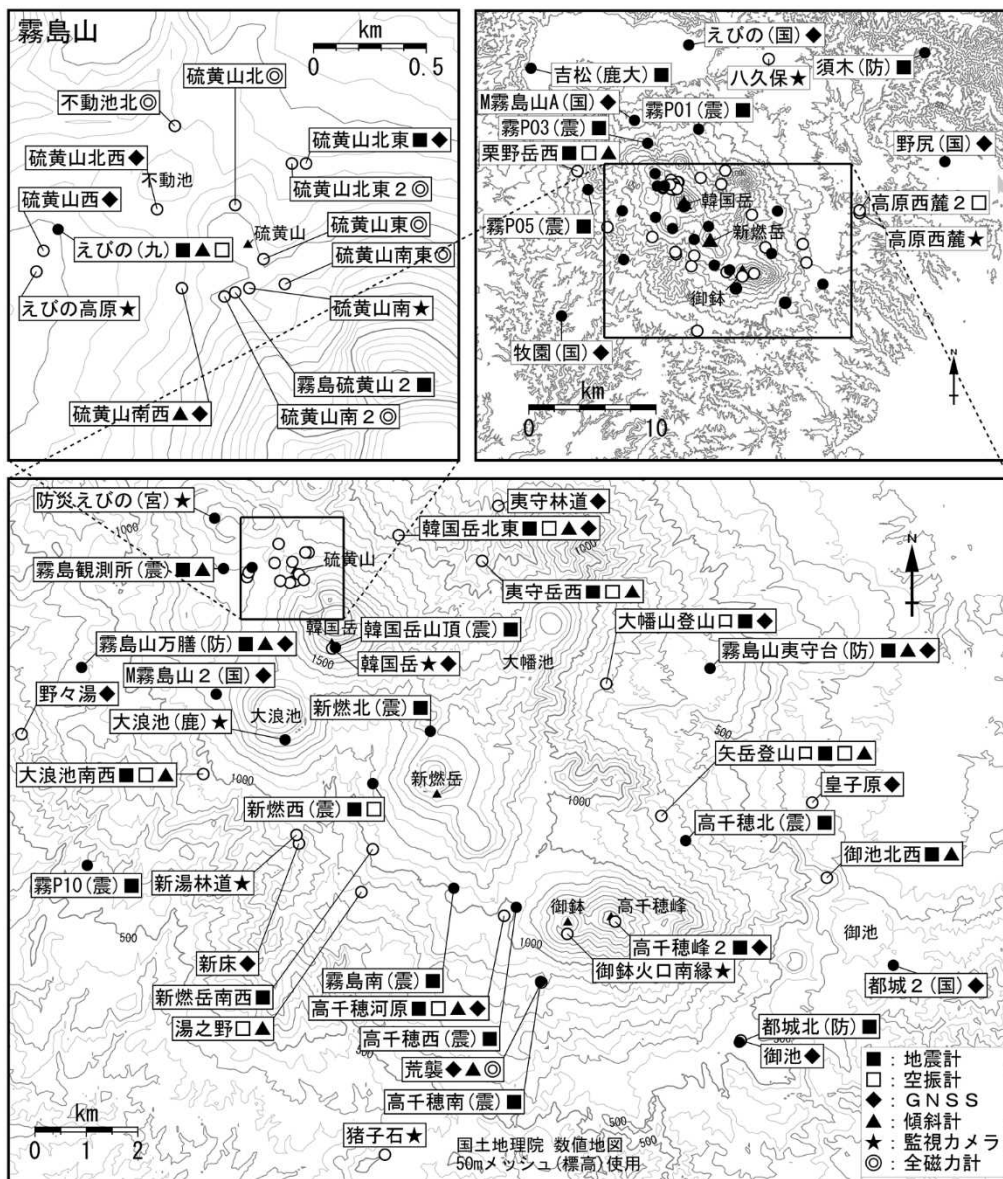


図6 霧島山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(震) : 東京大学地震研究所、(九) : 九州大学、(鹿大) : 鹿児島大学、
 (防) : 防災科学技術研究所、(宮) : 宮崎県、(鹿) : 鹿児島県